

幕末明治の写真師列伝 第六十六回 内田九一 その三十一

内田酉之助は明治4年(1871)、最初は天満天神表門東入で写真館を開業するが、後の明治17年(1884)に、内本町松屋町東入にも写場を設け、こちらを本店とし、天満天神表門東入を支店とする。内田酉之助が大阪で開業した理由は、明治4年(1871)に大阪造幣局が開局して、多くの長崎県人がこの大阪造幣局に奉職することになり、そんな彼らの勧めもあって大阪に行くことになったからだという。開業に当たっては内田九一も資金援助を惜しまず、その開業地もそれまで自分がよく知っている土地を選んで酉之助に紹介したという。この内田酉之助が大阪内田写真の初代である。

明治14年(1881)4月27日、内田酉之助は福井角兵衛の長女、キクと結婚するが、後に明治35年(1902)2月20日にキクとは協議離婚している。酉之助は兄の内田与七郎とその妻、スマの長男の虎二に、幼少の頃より写真術を教えた。そして、内田酉之助の方は、虎二が一人前の写真師になるのを見届けると、分家して大阪市北区此花町398番地から兵庫県神戸市に移り、神戸港楠公社東門東で写真館を開設した。大正9年(1920)8月24日、兵庫県神戸市兵庫橋通1丁目2番地において享年72歳で没。法名は釈六西信士。酉之助の墓は長崎の内田家の菩提寺大光寺の後山にある。

酉之助の家督は、酉之助とキクの長男、内田敬一(内田写真二代目)が家督を相続することになり、内田敬一は酉之助の神戸の内田写真館を引き継いで経営することになる。この写真館は明治42年(1909)の古田隆一編発行『花柳界美人の評判記 神戸市内 西ノ宮 明石』(古田隆一、1909年)によれば、明治42年(1909)4月の神戸市内著名の写真館として「橋通一丁目 内田写真館」とあり、また、同書の写真業の覧には「内田写真館 橋通一丁目裁判所前」とあることから、この内田写真館は当時の橋通1丁目2番地にあった。しかし、この写真館はうまくいかず、その後廃業してしまった。敬一は京都市上京区大將軍鷹司町東堂後25番地において、昭和3年(1928)8月3日に亡くなった。法名は龍光院心譽敬居士。敬一の墓は大阪内田家の菩提寺藤井寺にある。

敬一とその妻、コナヲ(花谷忠太郎の次女)との間には、長男、雅夫、長女、喜美、次女、恵美、次男、福司がいるが、次男、福司は大正15年(1926)7月15日に、長女、喜美は昭和2年(1927)4月3日に京都市下京区西院東高田町で亡くなった。法名は樂譽妙喜善童女。また、次女の恵美も平成7年(1995)6月14日に亡くなっている。そのため敬一の後は、長男の雅夫が家を継いでいるが、その後、雅夫は東京に移転、写真業は継がなかった。平成8年(1996)7月29日、内田雅夫は東京で死去。

酉之助の長男の敬一が神戸に移ると、内田虎二が大阪市内本町松屋町東入の本店と、天満天神表門東入の支店を引き継いで内田写真三代目となる。内田虎二は明治17年(1884)に写場を大阪市東区上本町2丁目に新設して、そこを本店とする。虎二は日本軍国主義の発展と共に日本軍隊の御用写真師として、日清、日露戦争の時には連日のように出征兵士たちの記念撮影に追われ、内田写真館も大繁盛であった。そのため内弟子も50

人を超えるほどまでであったという。しかしながら、内田虎二の写真館はその技術の高さから撮影料も高く、金回りのよくなった内田虎二は大阪の花街で遊ぶようになり、写真館も放漫経営であったという。

明治31年(1898)の宇田川文海、長谷川古都士『大阪繁昌誌』下巻、「天満天神社内及び其の附近一斑」の項では、天満天神社附近の商店名が列挙されており、

「霊府と表門一斑 天神社の東を霊府といふ、以前は遊女町にて盛なりしが、漸々衰微して今は僅に待合茶屋の如きものあるのみ、これに反して表門前は日々繁昌に赴き、四時昼夜賑の非常なり、左に各商店を列記すべし、

天神社前

いろは 鶏肉店	内田 写真店
丸萬 精肉店	中村 全
柳川 菓子店	
三木 菓子店	」

と、天満天神表門東入にあった内田写真館の支店が取り上げられている。

明治35年(1902)9月6日、虎二の三女、富美が夭折する。法名は顯夢知覺嬰兒。富美の墓は大阪内田家の菩提寺藤井寺にある。明治38年(1905)5月18日、虎二の二男、良夫が夭折する。法名は寛雄良心童子。大阪内田家の菩提寺藤井寺に葬られた。明治45年(1912)5月11日、虎二の妹、モリが亡くなる。法名は「釈」以下は不明。大阪内田家の菩提寺藤井寺に葬られた。

大正2年(1913)9月28日、虎二の母、スマが亡くなる。スマの墓は大阪内田家の菩提寺藤井寺にある。大正3年(1914)8月11日、内田邦三は釣延吉、シカの三女、マキと結婚する。大正3年(1914)8月30日、内田邦三の長女、貴久が生まれる。後にマキは釣直吉(釣延吉の子息か)の養女となっている。大正5年(1916)8月18日、虎二は病のため享年51歳で亡くなった。法名は清浄院玄心一道居士。虎二の墓は大阪内田家の菩提寺藤井寺にある。虎二の後には虎二の次男、内田邦三が内田写真の四代目として継ぐことになるのだが、大正4年(1915)から始まった大不景気もあり、内田写真も苦境に陥る。大正6年(1917)11月21日、虎二の四女、千賀が豊能郡池田町1078番地において享年15歳で亡くなる。法名は信譽智道妙定尼。己代子の墓は大阪内田家の菩提寺藤井寺にある。大正6年(1917)12月16日、内田邦三の二女、己代子が生まれる。この己代子は太平洋戦争中の昭和18年2月5日、享年27歳で亡くなった。法名は妙法本已院妙實日代信女。己代子の墓は大阪内田家の菩提寺藤井寺にある。

そこで内田邦三は、大正7年(1918)に大阪市東区上本町1丁目にあった本店を閉店して、大阪市北区天神橋2丁目にあった写真館のみの営業とし、すぐ傍の天満宮の引き立てを受けて、この天満宮の専属写真館となることにした。そのため婚礼の記念撮影の仕事が多くなり、内田写真館もこのおかげで経営が持ち直すことになる。

(森重和雄)